

NEWS LETTER ふたば便り Vol.6

2008年2月8日発行



去る12月8日、レズリー・ダウンナー氏が来館。大広間に詰めかけた超満員の聴衆を前に、貞奴について語った。明治という時代に芸者がどのような職業であったのか。舞台上立つまでのいきさつ。モダンダンスの母、セイント・デニスやプッチーニなどに与えた影響。各国の図書館で新聞や雑誌をあたり、ときには現場をたずねて、貴重な記事や証言を収集した彼女の話、特に欧米での公演の様子は詳細にわたり、とても興味深いものだった。90枚におよぶスライド映像が、リアリティーを添える。

川上座の公演は、古典の演目をまぜあわせて凝縮し、派手な立ち回りや「ハラキリ」のシーンをとり入れたもので、日本人劇評家には酷評された。しかし、4、5時間ほぼ座りつ

「日本における女優第1号」と称される川上貞奴。しかしその演技について語られることは意外に少ない。アンドレ・ジイドも絶賛したという彼女の舞台は、どのようなものだったのだろうか。彼女はどんな思いで舞台に立っていたのだろうか。英国人作家レズリー・ダウンナーの著書『マダム貞奴』と昨年12月に行われた彼女の講演は、そんな疑問を解く鍵を与えてくれた。

「自由は舞台の上に」 レズリー・ダウンナー講演会を終えて

兼松はるみ(文化のみち二葉館)

「日本における女優第1号」と称される川上貞奴。しかしその演技について語られることは意外に少ない。アンドレ・ジイドも絶賛したという彼女の舞台は、どのようなものだったのだろうか。彼女はどんな思いで舞台に立っていたのだろうか。英国人作家レズリー・ダウンナーの著書『マダム貞奴』と昨年12月に行われた彼女の講演は、そんな疑問を解く鍵を与えてくれた。

ばなしのせりふ劇(古典的な西洋劇のスタイル)を見慣れていた欧米の観客にとって、身振りや踊りだけで素朴な情念や苦悩が伝わってくる30分の演劇は新鮮なものだったと、レズリーは語る。特に、貞奴の「死の演技」における圧倒的なリアリズムは、女子の美とあいまって、多くの観客を魅了した。

「私はアメリカの女性がいかに男性に大切にされていたかを決して忘れることはないでしょう。日本に戻ったときには、日本の生活の中に、女性をより重要に考えるよう、少しでも影響を及ぼせるよう願っています。」

ボストン・グローブ紙のインタビューにこう答えた貞奴は、三度目の洋行からもどった1908年、女優養成所を開設。多くの女性の前に女優という道を開いた。



昨年秋 集英社より出版された『マダム貞奴 世界に舞った芸者』レズリー・ダウンナー著 木村英明訳

「貞奴に対する思いを持つ皆さんと、その思いを分かち合えたことを、本当に幸せに思います」
レズリーが講演の最後に語った言葉。 通訳は鶴本花織さん

性大切にされていたかを決して忘れることはないでしょう。日本に戻ったときには、日本の生活の中に、女性をより重要に考えるよう、少しでも影響を及ぼせるよう願っています。」

ボストン・グローブ紙のインタビューにこう答えた貞奴は、三度目の洋行からもどった1908年、女優養成所を開設。多くの女性の前に女優という道を開いた。

「芸者へ役者の妻」(女優へ愛人)という、そのときどきの役割を懸命に果たした生涯。しかし、演技を通してその感情をほとばしらせた舞台の上こそ、彼女が一番求めていた自由があったのではないかと想像してみよう。そして、一座の命運をかけて全身全霊で演じ、喝采を巻き起こした欧米での舞台がその出発点となったのだ。2時間立ちっぴはなしで情熱的に語るレズリーの顔を見つめながら、そんなことを考えていた。



レズリー・ダウンナー氏と成田山貞照寺担当の渡邊千永さん

2008 EVENT SCHEDULE

文化のみち二葉館 イベントスケジュール

「ふたばの日」(開館時間を延長します)

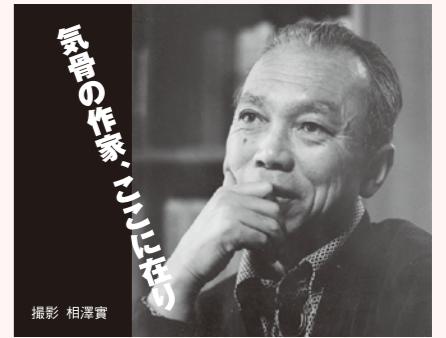
- ◆2008年2月8日(金) 10時～20時
- ◆入館料、入場料無料
- ◆入館者先着28名様に二葉館年間入館パスポート券をプレゼント
- ◆大正琴祝い邦楽 (会場・1階大広間/13時～14時) 「大正琴でつづる!江戸～平成までの癒しのしるべ」 出演:澄音会 江戸時代から伝わる邦楽曲や時代を代表する流行歌などを、名古屋生まれの伝統楽器大正琴の音色にのせてお届けします。



- ◆川上貞奴着物一部特別展示 (1階・2/8～2/11) ※最終日は16時まで
- ◆蔵前特別開放
- ◆1day書庫棟公開 ※15～20名単位での入棟&説明
- ◆館内常駐特別ガイド(東区文化のみちガイドボランティアの会)

「気骨の作家、ここに在り」 城山三郎展

- ◆2008年2月8日(金)～3月23日(日) 文化のみち二葉館 2階
- 未発表小説、私家本の詩集など、初公開資料も含め一挙公開



文化のみち情報BOX

文化のみち榎木館……これからのイベント

榎木館のおひなさま

- 期間 2月7日(木)～3月9日(日) 10時～17時 *最終日は15時まで
- 会場 和館各室 春の訪れに先がけて、皆が持ち寄ったおひなさまを、大正期のお屋敷に飾ります。
- お問合せ 文化のみち榎木館 TEL(052)939-2850



文化のみちワークショップ 2008

- 日時 3月2日(日) 13時30分～17時
- 会場 和館中の間
- お問合せ 文化のみちワークショップ実行委員 090-8860-4484 kmatuda@sc.starcat.ne.jp
- 新たなステージを迎えた榎木館の活用をテーマに、ワークショップを開催します。

「日なたぼっこ」 多世代の出会いと交流の居場所づくり

- 日時 3月20日(木・祝) 13時～16時
- 参加費 無料
- お申込み・お問合せ 東区役所まちづくり推進室(052)934-1123または、まちの縁側育くみ隊(052)936-1717 *3/14(金)までに電話でお申し込みください。

「まちを知る 人を繋ぐ」 第1回ワークショップ

- 日時 3月22日(土) 13:00～16:00
- 会場 文化のみち榎木館・鍋屋町商店街界隈
- 講師 野外活動研究会代表 岡本信也
- テーマ まちを歩く 考現学的観点から(講義とフィールドワーク)
- お問合せ NPO法人榎木倶楽部 TEL 090-3304-5056

山吹遺産 2008

- 2月28日(木)～3月2日(日) 10時～17時
- 会場 和館中の間 山吹小学校5年生の絵を展示します。
- お問合せ 文化のみち榎木館 TEL052-939-2850

早春茶会・琴の演奏会

- 日時 3月1日(土) 10時～15時
- 琴の演奏・11時～14時
- 会場 茶室・座敷 呈茶代 400円
- お問合せ 文化のみち榎木館 TEL(052)939-2850



徳川園……これからのイベント

お問合せ 名古屋市徳川園管理事務所 TEL(052)935-8988

冬牡丹の展示

- 期間 1月2日(水)～2月24日(日) 9時30分～17時30分 月曜休園(祝日の場合はその翌日)
- 場所 徳川園内「牡丹園」及び蓬左文庫前園内外で約80株の冬牡丹を展示します。寒さに耐え、わら困いの中で凛として咲く冬牡丹をご鑑賞ください。



早春の徳川園 3月16日(日)無料開園

- 日時 3月16日(日) 9時30分～17時30分
- 尾張藩二代目藩主光友が、元禄8年(1695年)に自らの造営による隠居所である大曾根屋敷に移り住んだ日を記念し、無料開園します。梅や杏など早春の花々をお楽しみください。また、当日は楽しいイベントを予定しています。

NEWS LETTER ふたば便り Vol.6

発行日 2008年2月8日
発行 文化のみち二葉館
【名古屋市旧川上貞奴邸】
〒461-0014 名古屋市東区榎木町3-23
TEL&FAX 052-936-3836
http://www.futabakan.city.nagoya.jp

※この冊子は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

